

＜祈禱会を豊かに＞

村上定幸

【主の祈り】同じ間違いのない記事が、マタイによっても記録されています(マタイ6:9)。11:1は“主が祈っておいでになる”のを知り、弟子が“どんな祈りをされたのか私たちにも教えてほしい”ということから始まります。ユダヤ教においても、これは少し時代が後になるのですが“シェモーネ・エスレー”という公的祈禱文があります。現代のキリスト教会でも、いくつもの“祈禱書”というものがあって、使用されています。書店で調べても、沢山の祈禱書があることが分かります。そしてそのすべてが、素晴らしいのです。草薙では毎月聖餐を守っていますが、そこでも祈禱が“読まれ”そして“捧げられ”ます。決まった言葉による祈りには、よくよく研究された素晴らしさがあります(私たちの教団にも、“式文検討委員会”というのがあって、そこで、長い時間をかけて、結果がそれぞれの教会に届けられているのです)。その中心になるものの一つが、今朝の箇所記されている“主の祈り”になります。

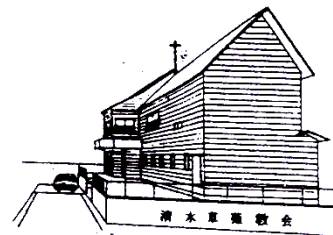
【自由祈禱】私たちは、自由に、その時与えられた言葉によって祈ることを中心に、教えられたと思います。ですから“私は、まだよく勉強してないから、お祈りできません”等という不思議な言葉に出会うことがあります。このような決まった言葉によらない祈りを“自由祈禱”ということもあります。そのような不安に襲われた時には、祈禱書を用いて、それを読むことによって祈ればよいと思います。自由な祈禱より、はるかに心身の安定を得ることができると思います。その中心が“主の祈り”だということになります。

【父よ】神を“父”と呼んでいるのは、イエス様だけだったでしょう。そして“あなたがたもそうしなさい”と言っておられるのです。当時のラビ(ユダヤ教の指導者)たちが紐解いていた祈りには、勿論“父よ”という祈りはありませんでしたし、聖書が教えているように、偽善的なものでした。ヨハネは一つの集団をつくって信仰運動をしていたことが分かりますが、この群れにも祈禱の言葉があり、そこにも“父よ”とはなかったと想像されます。この言葉(ユダヤの家庭で、父を呼ぶ言葉、アバ)が、“祈り”をはっきりさせているといっても良いでしょう。

【メシヤ】メシヤが天においでになる方として“今、来てくださった”ということになります。終末の時代の出来事です。そしてルカは、良いものの根源の力を聖霊に求めました。“このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない(マタイ7:11)”と、同じことをマタイは語りました。求め、探し続けるのが教会の姿なのです。この力はペンテコステ(今日の礼拝で記念すること)の出来事において実現しました。世界が、悪を知っていながら、悪を行わざるを得ないような現代でも、天と地との対立を超えて、“御国が来ますように”と祈ることができるのです。

週報

2011年 6月 12日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042